

令和元年度 森林整備事業 再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	高越二戸線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	美馬市(旧穴吹町・旧木屋平村)																	
事業	【目的】 当林道は、美馬市穴吹町穴吹の林道猿飼線から美馬市木屋平の県道三ツ木宮倉線へと連絡する森林基幹道である。 当該林道は森林資源の合理的経営管理に資するための重要な基盤となっており、森林整備の促進により公益的機能の維持増進と、中山間地域の雇用増進を図ることを目的とする。 また、県道三ツ木宮倉線の沿線集落においては、災害時の迂回路としても期待されている。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 20%;">1,167ha</td> <td style="width: 50%;">[人工林面積:656ha (56%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>273戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>16,400m</td> <td>(うち令和元年度末の供用予定延長 4,782m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>4,896,300千円</td> <td>(うち平成元年度末の実施予定事業費 1,627,374千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成6年度～令和22年度</td> <td>(47年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,167ha	[人工林面積:656ha (56%)]	受益戸数(森林所有者数)	273戸		幅員	3.5～4.0m		計画延長	16,400m	(うち令和元年度末の供用予定延長 4,782m)	総事業費	4,896,300千円	(うち平成元年度末の実施予定事業費 1,627,374千円)	事業予定期間	平成6年度～令和22年度
利用区域面積	1,167ha	[人工林面積:656ha (56%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	273戸																			
幅員	3.5～4.0m																			
計画延長	16,400m	(うち令和元年度末の供用予定延長 4,782m)																		
総事業費	4,896,300千円	(うち平成元年度末の実施予定事業費 1,627,374千円)																		
事業予定期間	平成6年度～令和22年度	(47年間)																		
評価	【事業の進捗状況】 平成6年度に全体計画調査を実施し、翌7年度に美馬市木屋平側の木屋平工区を着工し、平成15年度からは美馬市穴吹町側の猿飼工区を着工し2工区で開設を進めていたが、平成27年度開設分から、木屋平工区において、土地所有者の境界が未確定で、立木補償費の算定が出来なかったことに加え、所有者の意向もあり、工事を一時休止している。 進捗状況としては、起点側猿飼工区で2,099m、終点側の木屋平工区で2,683mの計4,782mが供用されているが、町道の改良等により猿飼工区の着工が遅れたこと、木屋平工区の一時休止、さらには、地形が急峻で進捗率は計画より遅れている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:29.2%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 供用開始区間周辺では、搬出間伐や主伐など随時行われている。なお、本路線を開設することにより、林道猿飼線、市道桑柄線に接続されることになり、路網のネットワーク化が構築され、低コストで効率的な林業生産が今後も期待される。																			
	【社会経済情勢の変化】 ・本県では、充実してきた森林資源を背景に「数次の林業プロジェクト」を展開しており、令和10年度(2028年)までに「県産材の生産量・消費量を70万m ³ /年」を戦略目標の一つとしている。 ・高まる木材需要に対処するため、更なる増産と、それを担う人材育成が急務であり、施業の効率化による生産性の向上と低コスト化を実現するためにも路網整備は重要である。																			
項目	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
	【事業効果の発現状況】 ・路網整備によるコスト縮減等により伐採が促進された。 ・森林整備が促進され公益的機能効果が高まった。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.43 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
目	【受益者・関係機関の意向】 森林施業のみならず、地域の交通ネットワークとしての役割も期待されることから、地元からは早期完成を要望されている。																			
	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																			